

## デンタルダイヤモンド 2011. 6月号

### ○実践歯科ライブラリー／再考！歯周外科（二階堂 雅彦）

＊歯周炎の病態について理解が深まり、また歯周外科に対するエビデンスが蓄積され、従来の歯周外科の適応を見直す時期が来ている。この特集では、スケーリング、ルートプレーニング、歯周外科の予後の研究から、歯周炎患者の9割は適切なプラークコントロールとSRP、更に定期的なSPTで維持できるとまとめている。歯周疾患のハイリスク患者には歯周外科（再生療法）が有効であること示している。参考になります。

### ○X線被曝のQ&A／もし患者さんから「放射線被曝」に関する質問を受けたら

（岩井一男 和光 衛 橋本光二）

＊福島原発事故の影響で、患者さんが医療機関での被曝にも敏感になっています。もし患者さんから「放射線被曝」に関する質問を受けた場合の回答をQ&A形式でまとめてあります。一読をお勧めします。

| 撮影法（／1検査）           | 実効線量（ $\mu\text{Sv}$ ） |
|---------------------|------------------------|
| デンタル撮影（フルマウス）       | 170.2                  |
| デンタル撮影（1撮影あたり平均）    | 12.2                   |
| パノラマ撮影              | 14.2～24.3              |
| 側貌セファロ／1撮影          | 5.6                    |
| 後頭前頭方向撮影／1撮影        | 5.1                    |
| 歯科用CBCT（FOV40×40）   | 18.6～77.8              |
| 歯科用CBCT（FOV100×100） | 116                    |
| 医用CT（頭頸部上下顎撮影）      | 860～1800               |

## 歯界展望 2011. 6月号

### ○シリーズ座談会 歯科治療とCTインプラント治療におけるCTの活用

— その有効性と問題点を探る —（椎貝達夫 重原聡 高村宗俊 武田孝之）

＊急速に歯科界に普及しているCTについて医用CTと歯科用小型CT(CBCT:conebeamCT)の相違などCTを活用するうえで重要な基礎的なことを解説している。臨床医が知っておくべきガイドサージェリーの有効性と問題点なども討論されている。

## ザ・クインテッセンス 2011. 6月号

### ○Classification of Flap Design 結合組織移植におけるフラップデザインの分類について考察する

（中田 光太郎）

＊結合組織移植を伴う軟組織マネジメントは、様々な手法が考案・適応されており、マイクロサージェリーの普及により今後はオープンテクニックに加えてクローズドテクニックのバリエーションも増えてくると思われる。筆者は、結合組織移植の分類をオープン・クローズドテクニックそれぞれの特徴・術式・適応症・インスツルメントを、症例を交えて紹介している。天然歯ばかりではなくインプラント症例での応用を詳細に解説しているので審美的要求の高まりに対しても対応できる内容である。

### ○咬合調整を少なくするための歯科技工士からの提案（全3回）①なぜクラウンが高くなるのか？

—その要因を探る—（大山儀三）

＊審美的要素の前により精度の高い補綴物が無調整に近い状態で口腔内に装着され機能することが要求されるが、咬合調整にチェアタイムが割かれるのが現状ではないだろうか？ 筆者は、補綴物が高くなる要因を歯科技工士の立場から製作工程だけではなく生体の変化を解剖学的考察から検討を加えている。さらに種々の材料の寸法変化や、テクニカルエラーから誤差の主要原因を追求し、その誤差の解消法をまとめている。

### ○歯科材料に強くなる レベルアップ講座 第2回印象採得材に強くなる！（中村健太郎）

＊精度の高い補綴物の作製の第一歩として印象採得はまず重要となる。シリコーン印象材の取り扱いとアルギン酸印象材、寒天印象材で精度の高い印象を可能にするための留意点をわかりやすく述べている。

## 日本歯科評論 2011. 6月号

### ○＜特集＞1つ上を目指す 歯内療法へのアプローチ（牛窪敏博 加藤広之 他）

＊歯内療法は日常臨床においてもっともベーシックな治療の一つです。しかしいくらがんばっても100%成功するとは限りません。最近ではNiTiファイルやコーンビームCT、マイクロスコプなどが出現し根管治療の成功率を上げています。歯内療法をどう成功に導くか、基本的なことから最近の治療法まで再認識しさらにスキルアップするための特集です。

### ○対談 いざ、「評」して「論」ずる “予知性”の高い治療とは何か？

（土屋賢司 二階堂雅彦）

＊日本歯科評論が贈る新企画！ひとつのテーマを異なる視点から「評論」します。第一回は歯周病分野のスペシャリスト二階堂雅彦先生と補綴のスペシャリスト土屋賢司先生。たくさん症例を提示して“予知性”の高い治療をそれぞれの立場でディスカッションされています。思わずなるほど！と納得させられます。